



揖屋っ子

令和6年度第9号
令和7年1月21日

校長 池田 哲也

学校教育目標「自ら学び、考え、人とかがわり合い、たくましく生きる揖屋っ子の育成」

3学期がスタートしました

13日間の冬休みを終え、1月8日に3学期の始業式を行いました。3学期は、1年間のまとめと次年度に向けての準備のための大切な時期です。そんな大切な時期ですが、『一月往ぬる二月逃げる三月去る』から、『1月は行く、2月は逃げる、3月は去る』と言われます。正月から3月までは行事も多く、あっという間に過ぎてしまうことを表現しています。

1月は、1日の元日から始まって初詣、年始参り、七草がゆ、鏡開き、小正月などの年始行事が続き、あっという間に終わってしまいます。学校は、第2週目からスタートするので、1月は約3週間しかありません。

また、2月は他の月に比べ、日数が少なく、節分、立春、建国記念日、天皇誕生日などがあり、1年で最も短い月なので、逃げるように2月は終わってしまうと言われます。本校では、2月に仮校舎から本校舎後館西側への引越があり、逃げるように過ぎていくと予想されます。

そして、3月はひな祭り、彼岸、春分などがある一方で、卒業や移動の多い季節となることから、3月は去ると表現されます。移動と言え、3月末には今年度3回目の引越となる本校舎後館東側から仮校舎への引越もあります。

ただでさえ慌ただしく過ぎていく3学期ですが、校舎改修工事もあり、いつも以上に慌ただしくなることが予想されます。そんな中で、大切な1年の締めくくりと来年度に向けての準備をしっかり行っていききたいと思います。

6年生にとっては、小学校生活最後の学期でもあります。思い出深く、有意義な学校生活を送ることができるよう、教職員一同、協力しながら子どもたちを支えていきたいと思っています。今学期もよろしくお願いいたします。

ひらめきルームが公民館だよりで紹介されます！

今月号の東出雲公民館だより「Kiramachi」に本校の「ひらめきルーム」(ラーニングコモンズ)についての記事が掲載されます。学校だより等では紹介できなかった「ひらめきルーム」の魅力を子どもたちの意見、感想等を交えて紹介してもらっています。是非、ご覧ください。



地域学校協働活動について

本校の教育活動には、たくさんの地域の皆様、保護者の皆様に、大変お世話になっていきます。学校にお越しいただくだけでなく、子どもたちが地域へ出かけて学習させていただく機会が多くあります。親身になって子どもたちに接していただき、教職員だけではできない体験を通した学習や専門性の高い学びを行うことができます。このことで子どもたちの学びがより深まっていると感じています。以下の記事を今年度の校報第3号に掲載しました。

このような活動を「地域学校協働活動」と言い、東出雲学園及び東出雲地域では、「ほっとハート東出雲学園地域学校協働本部」が中心となって担っており、学校と地域をつないでいるのが地域学校コーディネーターです。

こういった活動を見られると地域の方や保護者の方が、学校のため、子どものために支援（お手伝い）をしていると感じられる方がおられると思います。確かに学校、子どもたちにとってはとてもよいことです。ただ、それだけでは、「学校支援」や「連携活動」であって、「協働活動」ではないように思います。「地域学校協働活動」とは、どんな活動のことか、一度皆さんで考えてみませんか。（揖屋小学校・学校だより「揖屋っ子」令和6年度第3号より）



では、「協働活動」とは、どのような活動でしょうか。学校のねらい、目標を達成するためにだけに支援、お手伝いをさせていただくのは、「学校支援活動」に当たると思います。では、「協働活動」はどうでしょうか。「ねらい、目標を学校と地域・家庭が共有して、めざすところを同じくして行う活動」、または、「一つの活動を通して、学校と家庭・地域がそれぞれのねらい、目標を持ち、それを達成できる活動」が「協働活動」となると考えられています。そういった意味では、本校がたくさんの地域の方、保護者の皆様と共に実施しております教育活動は、多くが「地域学校協働活動」にあたると考えております。今後もこれらの活動を通して、「地域とともにある学校づくり」を目指していきたいと考えております。

また、一方で「地域学校協働活動」を通して「学校を核にした地域づくり」が目指す姿として必要であるとも言われています。これは、「協働活動」の取組を通じて、地域の将来を担う人材を育成し、自立した地域社会の基盤づくりを行うことです。学校で「地域づくり」というとピンと来ない方もおられると思います。「ふるさと教育」の取組が分かりやすいかもしれません。「ふるさと教育」は平成17年度より島根県内、全ての公立小中学校において行われてきた独自の教育活動です。前段の本校の教育活動の多くがそれにあたります。この「ふるさと教育」を通して、児童・生徒が「地域への愛着や誇り、関心を持つ」ことにつながっています。このことは、『「令和5年度島根県内高校3年生を対象とした進路決定に関する意識等の把握に係る調査」アンケート調査報告書（令和6年3月・島根県教育委員会）』からも見て取ることができます。「地域への愛着や誇り、関心を持つ」児童・生徒を育成することは、地域の基盤づくりにつながると考えます。

「地域学校協働活動」について、社会教育に携わった経験もあることから説明をさせていただきました。今後、「学校を核にした地域づくり」につながる取組として更に進めていきたいと考えているのは、「あいさつ運動」です。「あいさつ運動」は、「地域社会の基盤づくり」にどうつながっていくのでしょうか。（つづく？）